

第1号議案

社会資本整備総合交付金事業(道路改築・過疎代行)
わぐみわくばら
 (市)輪組輪久原線 沼田市

着工年度 平成8年度
 評価理由 再評価後5年経過

1. 事業の目的

・「群馬県過疎地域自立促進計画」に位置付けられている路線を、県が沼田市(旧利根村)に代わり事業実施する。
 ・片品川を挟む旧利根村と旧白沢村の幹線道路かつ、広域幹線農道「望郷ライン」の一部であるが、急勾配や幅員狭小等により交通の難所となっている。
 農産物の物流促進や観光施設(観光果樹園、スキー場、老神温泉、吹割の滝)への年間を通じたアクセス向上により、観光資源の有効利用および過疎地域の活性化を図るため、道路網を強化する。



2. 事業概要と進捗状況

事業概要

事業場所	ぬまたしわぐみ 沼田市輪組		
区分	今回	平成21年 計画変更時	事業当初・前回再評価時
全体事業費	1,790百万円	2,297百万円	1,542百万円
全体事業費増減の理由	縦断線形等を見直した	交付金区間を延伸	
事業期間	H8～H27	H8～H31	H8～H22
事業内容	道路延長1,060.0m 幅員 7.0m	道路延長 1,060.0m 幅員 7.0m	道路延長 770.0m 幅員 7.0m

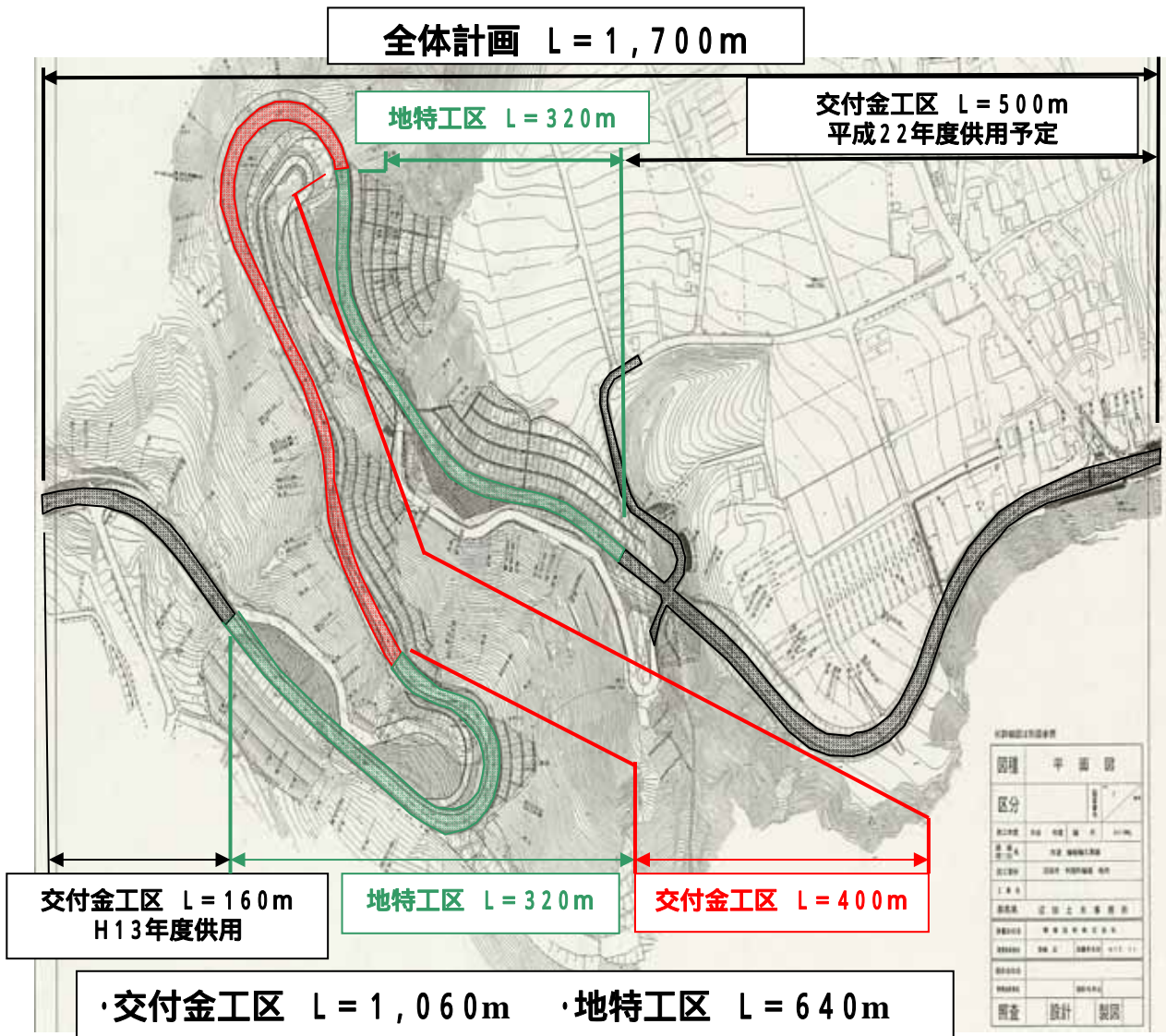
事業経緯

年度	主な経緯
H8	事業着手
H11	用地買収・工事着手
H17	再評価・計画変更
H21	計画変更
H22	500m供用予定

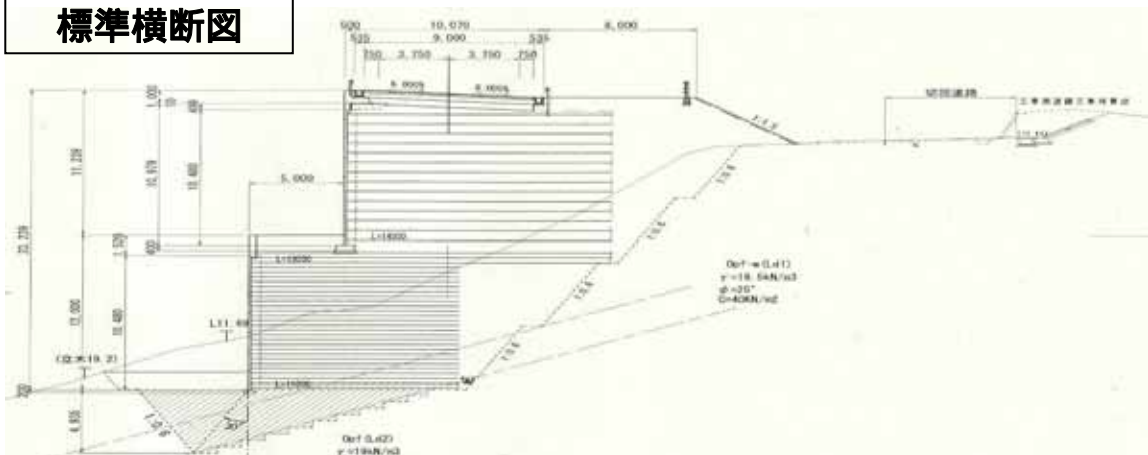
進捗状況

	全体計画	現在の進捗状況 (進捗率)	前回評価時の進捗状況 (進捗率)
事業費	1,790百万円	1,051百万円 (58.7%)	559百万円 (31.2%)
用地買収	23,080m ²	21,310m ² (92.3%)	18,570m ² (80.5%)
計画延長	1,060m	660m (62.3%)	160m (15.1%)

2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)



標準横断面図



3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

起終点の標高差や道路線形が悪く幅員も狭いうえ、特に冬季間は交通の難所である。また、望郷ラインの中で本区間のみが未完成となっている。この地域や観光地へのアクセス道路としての位置づけを考えれば、事業の目的および必要性について変化はない。



4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

- ・平成21年度の見直しにおいて、事業効果の早期発現を図るべく、全体事業区間の見直しを行うと共に、橋梁区間の比較検討を行い補強土壁に変更した。
- ・さらに、今回、縦断線形や平面線形の見直しを行い、コスト縮減に努め早期完成を図る。
- ・平成22年度にL=500mの一部供用を予定している。

計画内容の推移

		前回再評価(H17)時	H21計画変更時	今回
全体計画延長		1,700m	1,700m	1,700m
交付金工区延長		770m	1,060m	1,060m
幅員		7m(車道7m)	7m(車道7m)	7m(車道7m)
全体事業費		15.4億円	23.0億円	17.9億円
構造物	トンネル	0箇所	0箇所	0箇所
	橋梁	1箇所(L=95m)	0箇所	0箇所
	補強盛土	1箇所	2箇所	2箇所



費用便益分析

		計画・前回再評価時		今回再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル							
基準年							
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用(千円)	工事費						
	維持管理費						
費用合計(C)							
便益(千円)	走行時間短縮便益						
	交通事故減少便益						
	便益						
便益合計(B)							
費用対効果分析(B/C)							

代行事業につき算定せず

5. 事業が長期間要している理由は？

【 元々が長期計画

不測の事態により長期化】

- ・ルートの見直しにより、新たに必要となる用地の確保や買収済み用地との交換において関係者との調整に時間を要した。
- ・厳しい財政状況により、事業費の確保が困難となった。また、県負担額の縮減も考慮し交付金整備区間を増やすこととしたが、事業期間は長期化している。

6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし

・ 事業計画の変更

・ スケジュールの変更

「群馬県過疎地域自立促進計画」に位置付けられている路線を、県が沼田市(旧利根村)に代わり事業実施している。

片品川を挟む旧利根村と旧白沢村の幹線道路かつ、広域幹線農道「望郷ライン」の一部として観光資源の有効利用および過疎地域の活性化を図るための事業であり、現在の整備進捗率は62%である。

本区間が整備されることにより、旧白沢村と旧利根村の交流促進が期待されるとともに、利根沼田地域や片品方面へ観光アクセスの向上が図られ、過疎地域の活性化に大きな役割を果たすことから、事業効果の早期発現を図るべく、今回縦断線形や平面線形を見直した。その結果、コスト縮減が図られ、事業の完成が平成27年度となる。

今後もコスト縮減に努めながら早期完成を図りたい。